

# 蓮舫・長島氏が意欲

## 来月の民進代表選

### 都知事選「共闘効果」検証へ

民進党の蓮舫代表代行は岡田克也代表の任期満了に伴う9月の代表選に出馬する意向を固めた。

長島昭久元首相補佐官も出馬の意欲を表明。民進

党は野党4党の推薦候補が大敗した東京都知事選を受け、共闘の効果を検証する方針。党内に共闘路線を疑問視する声が出ており、分析の結果によつては代表選に影響する可能性もある。

蓮舫氏は1日、赤松広隆前衆院副議長、川端達夫衆院副議長と相次ぎ会談し代表選を巡って意見を交換した。両氏は岡田氏

を支持する立場で、両氏のグループから支持を得る狙いがある。赤松氏は共闘の継続が必要との立場で蓮舫氏に路線継続を求めているとみられる。

長島氏は1日、国会内で記者団に代表選への出馬を「真剣に考えたい」と意欲を示した。長島氏が率いるグループは10人弱で、代表選出馬に必要な20人の推薦人を確保できていない。このため、

保守系の前原誠司元相や細野豪志元環境相との連携をめざしている。代表選では野党共闘のあり方が争点の1つにな

る。「野党が協力して戦う姿がしっかりみえた。これから選挙総括もする必要がある」。1日の代

議士会で、岡田氏は都知事選をこう振り返った。長妻昭代表代行も「敗北の原因を科学的に、綿密に時間をかけて分析し、それをみて今後の戦略を詰める」と指摘した。

参院選東京選挙区の野党4党の候補者の合計得票数は240万票弱だった。このため、民進党執行部は告示前に「これをベ

ースに無党派層も取り込めばいい勝負になる」と皮算用をしていた。ただ4党が推薦した鳥越俊太

郎氏の得票は130万票余りにとどまり、当選した小池百合子氏に2倍以上の大差をつけられた。

執行部は共闘路線の継続を探っており、検証を通じてその正当性を訴えらるるとみられる。参院選で野党4党が全32の改選定数1の選挙区で候補を一本化した結果、11で統一

候補が勝利したのも「一定の効果があった」としている。ただ、長島氏は共闘を「(都知事選に)

マイナスの影響もあつた。国民の信頼を回復し、政権交代可能なイメージをつくるのに正しい道なのか疑問だ」と指摘した。